

彫物大工「波の伊八」の技で飾られた社殿

ふ じ み いくしまじんじゃ しやでんちようこく
富士見 巖 島神社の社殿彫 刻



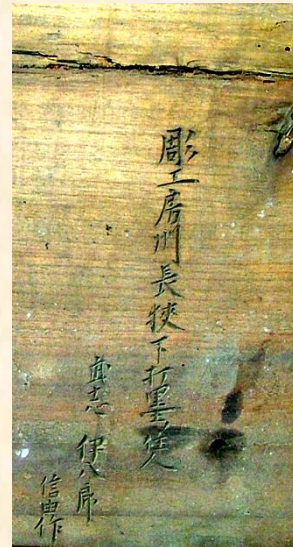
社殿中央の彫刻



社殿左側の彫刻



社殿右側の彫刻



中央の彫刻裏面の銘

巖島神社の彫刻3点は、社殿内で欄間飾りのように並べて掲げられています。中央の「日の出に鶴」(186cm×45cm)は、その形態から、元々は屋外にある社殿正面の唐破風の妻飾りと考えられます。また、左右2点の「松に山鵲」(約30cm×60cm)は、横長の状態で飾られていますが、本来は、縦長が正位で、脇障子の彫刻であったものと考えられます。「日の出に鶴」裏面の銘や作風から寛政7～12年(1795～1800)頃の「武志伊八郎信由」こと初代伊八の作品と推定できます。江戸時代の1800年前後の木更津周辺地域は、経済的にもかなり豊かな状況にあったと考えられます。こうした地域の経済力が背景となって、寺社を彫刻で飾ろうとする気運が高まり、社殿を飾る彫刻の制作を初代伊八に依頼したと思われま

市指定文化財：有形文化財（彫刻）
指定年月日：平成23年6月29日
所在地：木更津市富士見1-7-10
所有者：宗教法人 巖島神社
員数：3点
公開・非公開の別：非公開（例祭時のみ公開）
